



2012年度(2013年3月期) 第2四半期 決算説明会

2012年10月31日

セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

1. 概要

2. 詳細

決算ハイライト（中間決算）



(億円)	2011年度		2012年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	7/31予想	%	実績	%	前期実績比	前回予想比
売上高	4,255	-	4,000	-	3,882	-	-372 -8.8%	-117 -2.9%
営業利益	67	1.6%	△140	-3.5%	△141	-3.6%	-209 -	-1 -
経常利益	61	1.4%	△140	-3.5%	△141	-3.7%	-203 -	-1 -
税引前利益	0	0.0%	△300	-7.5%	△296	-7.6%	-297 -	+3 -
純利益	△43	-1.0%	△340	-8.5%	△354	-9.1%	-310 -	-14 -
EPS	△21.89 円		△190.06 円		△198.15 円			
換算 レート	USD	79.82 円	77.00 円		79.41 円			
	EUR	113.80 円	102.00 円		100.64 円			

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
USD: 75.00円、EUR: 100.00円

インクジェットプリンター事業

- 市場低迷、一部地域での競争激化により、本体・消耗品とも売上高未達
 - ✓ 本体販売数量は前年同期比プラス成長だったものの未達
- 本体コストダウン計画の未達で営業利益未達

ビジネスシステム事業

- 中国のSIDM徴税需要(新規導入分)の来期へのずれ込みと、先進国景気回復遅れの影響によるPOS関連製品の販売計画未達により、売上高・営業利益ともに未達

ビジュアルプロダクツ事業

- プロジェクター販売数量は前年同期比プラス成長だったものの、中国市場の成長鈍化影響や入札案件の先送り影響を受け、売上高は未達
- 高付加価値製品の伸びによるミックス改善で、営業利益はほぼ前回予想並み

2012年度業績予想



(億円)	2011年度		2012年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	7/31予想	%	今回予想	%	前期実績比	前回予想比
売上高	8,779	-	8,700	-	8,500	-	-279 -3.2%	-200 -2.3%
営業利益	246	2.8%	280	3.2%	180	2.1%	-66 -26.9%	-100 -35.7%
経常利益	270	3.1%	280	3.2%	160	1.9%	-110 -40.8%	-120 -42.9%
税引前利益	156	1.8%	130	1.5%	△40	-0.5%	-196 -	-170 -
当期純利益	50	0.6%	50	0.6%	△150	-1.8%	-200 -	-200 -
EPS	26.22 円		27.95 円		△83.85 円			
換算 レート	USD	79.08 円	76.00 円		77.00 円		今回予想 2012年度下期の予想前提レート USD: 75.00円 EUR: 100.00円	
	EUR	108.98 円	101.00 円		100.00 円			

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
USD: 75.00円、EUR: 100.00円

インクジェットプリンター事業

- 売上高は、先進国市場のマイナス成長、エマージング市場の成長鈍化を反映
⇒ 本体数量は追わず、モデルミックス改善、MIF構成の改善を進める
 - ✓ 低価格Home IJPの販売数量の絞り込み
 - ✓ Office IJPおよび高画質Home IJPの販売拡大
 - ✓ エマージング市場はBig Tank製品の拡充で販売拡大
- 営業利益は、本体コストダウン計画および消耗品売上高を見直し、反映

ビジネスシステム事業

- 売上高・営業利益とも、中国徴税需要動向を踏まえSIDM販売数量を修正、先進国の景気回復遅れを勘案しPOS関連製品の売上高を修正し、反映

ビジュアルプロダクツ事業

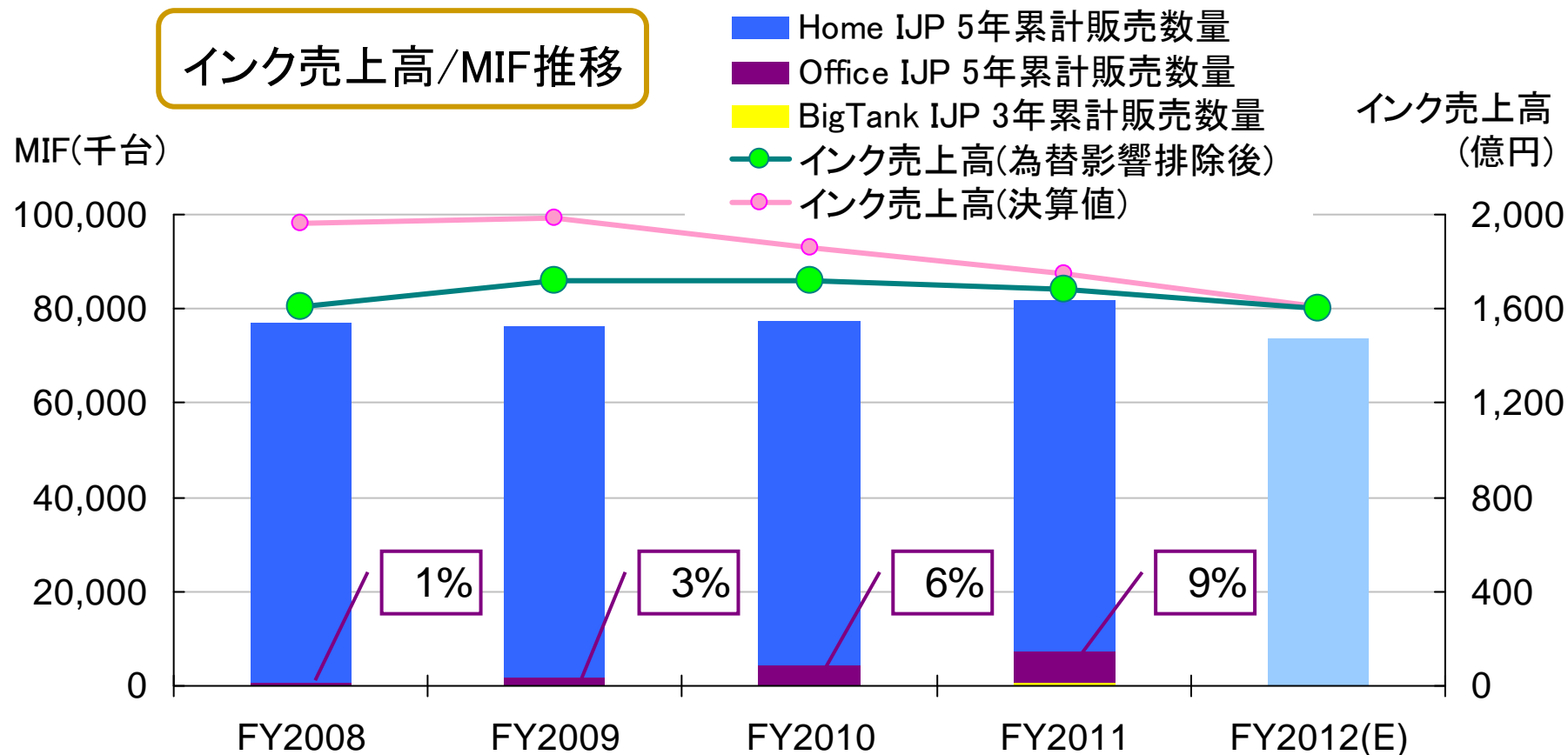
- 売上高・営業利益とも、高付加価値製品への注力によるモデルミックス改善を進めるものの、市場環境を踏まえ販売数量目標を修正し、反映

- 予想修正の背景
 - ✓ IJP事業は、2011年度上期震災影響からの回復を強く意図した販売計画により、2012年初からの市場の冷え込みに対応できなかった
 - ✓ ビジネスシステム事業は、環境の急激な変化への対応が遅れた
- 2012年度業績予想修正を踏まえ、足下の対応として以下の施策を加速する
 - ✓ 組織のフラット化・スリム化による経営スピードの向上
 - ✓ 在庫削減
- SE15後期 中期経営計画の1年次(2012年度)業績予想の見直しに伴い、中期業績目標値、およびSE15で目指す水準を、見直す
 - ✓ マクロ経済環境、市場環境、競争環境の変化を踏まえ、戦略の有効性および目標値の合理性について、検証・見直しに着手
 - ✓ 採り得る戦略の方向は変わらないものの、前提や時間軸を精査
 - ✓ 検証・見直しの結果は、第3四半期の業績を見極めた上で、できる限り早いタイミングで公表

SE15後期 中期経営計画の進捗

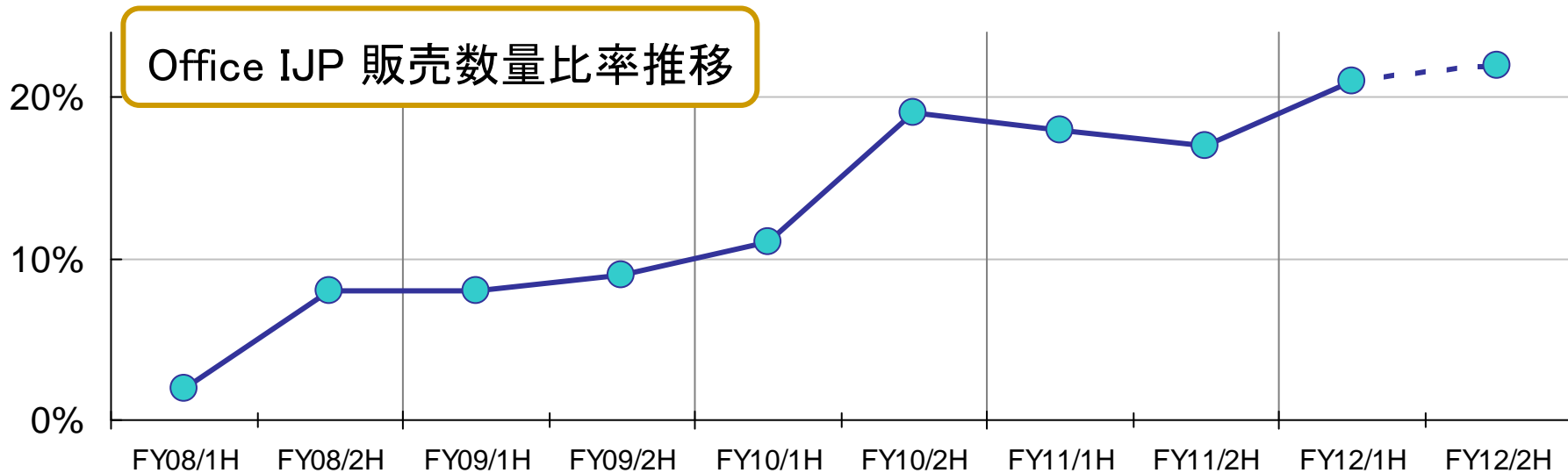


- 当社のインク売上高(為替影響排除後)は横ばいから微減の傾向にあり、主にHome IJPのインク売上高は減少傾向にある一方で、Office IJPのMIFは未だ低水準でありながらも徐々に増加していることにより、これを補っている。
- インク売上高成長のために、今後もOffice IJPのMIF増加を推進する一方で、低価格Home IJPの販売数量を絞り、MIFの構成を改善する。

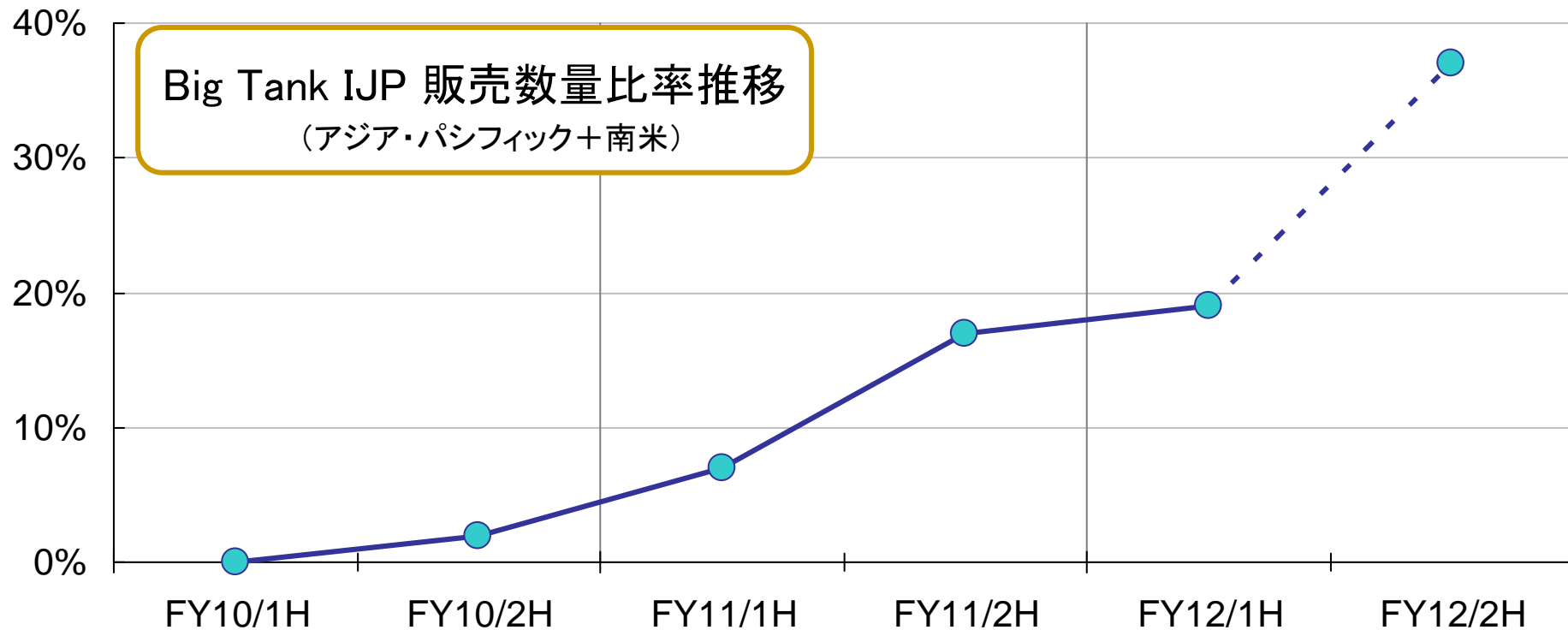


SE15後期 中期経営計画の進捗

- Office IJP本体のMIF増加により中期的な収益基盤を確立する。
- High end Office IJPのインク売上高伸長率は高水準で推移している。

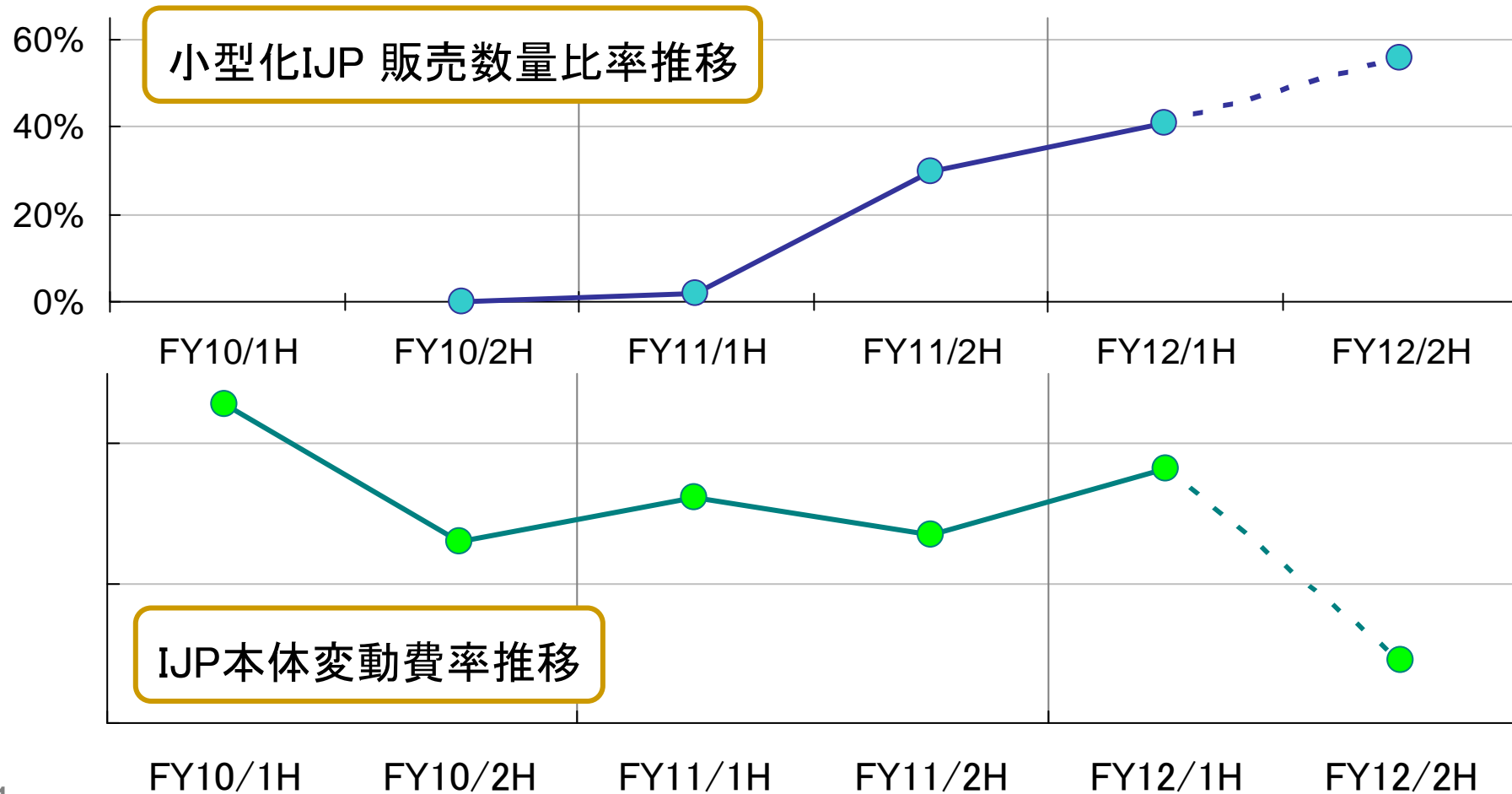


- Big Tank IJPは、アジアパシフィックや南米を中心に順調に販売が拡大、今下期には同地域の販売数量比率は40%近い水準へ。
- これに伴い、同地域の利益率は改善方向にあり、今後もエマージング市場でBig Tank IJPの更なる拡販をはかる。



SE15後期 中期経営計画の進捗

- IJP本体小型化モデルの販売比率は着実に拡大しており、商品競争力向上の源泉となっている。
- 一方、損益面でも一定の改善効果は表れているものの、計画コストに対する進捗が遅れていることから、今後コストダウンへの取り組みを一層強化する。



1. 概要

2. 詳細

1) 2012年度 第2四半期決算

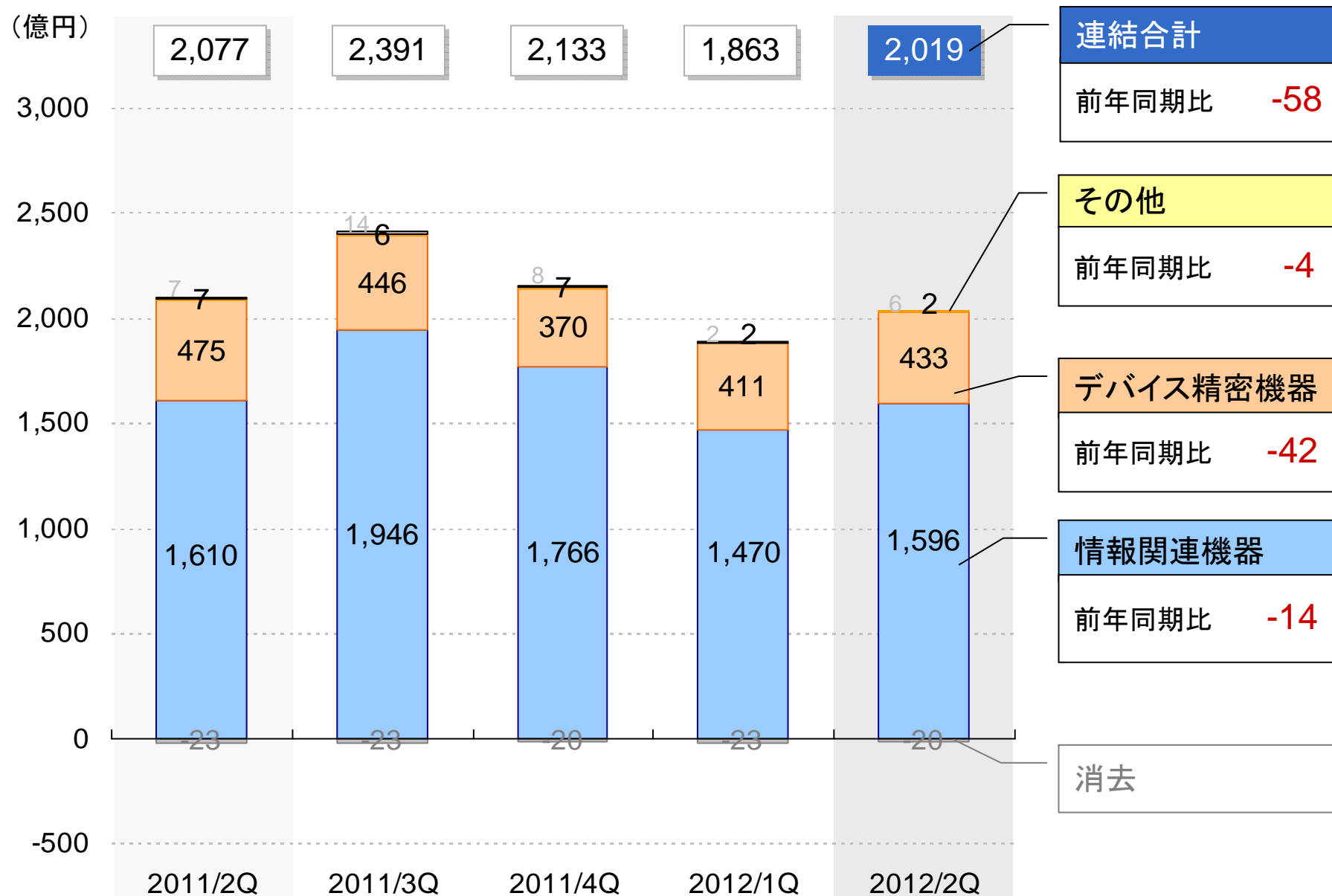
2) 2012年度 業績予想

決算ハイライト（第2四半期決算）

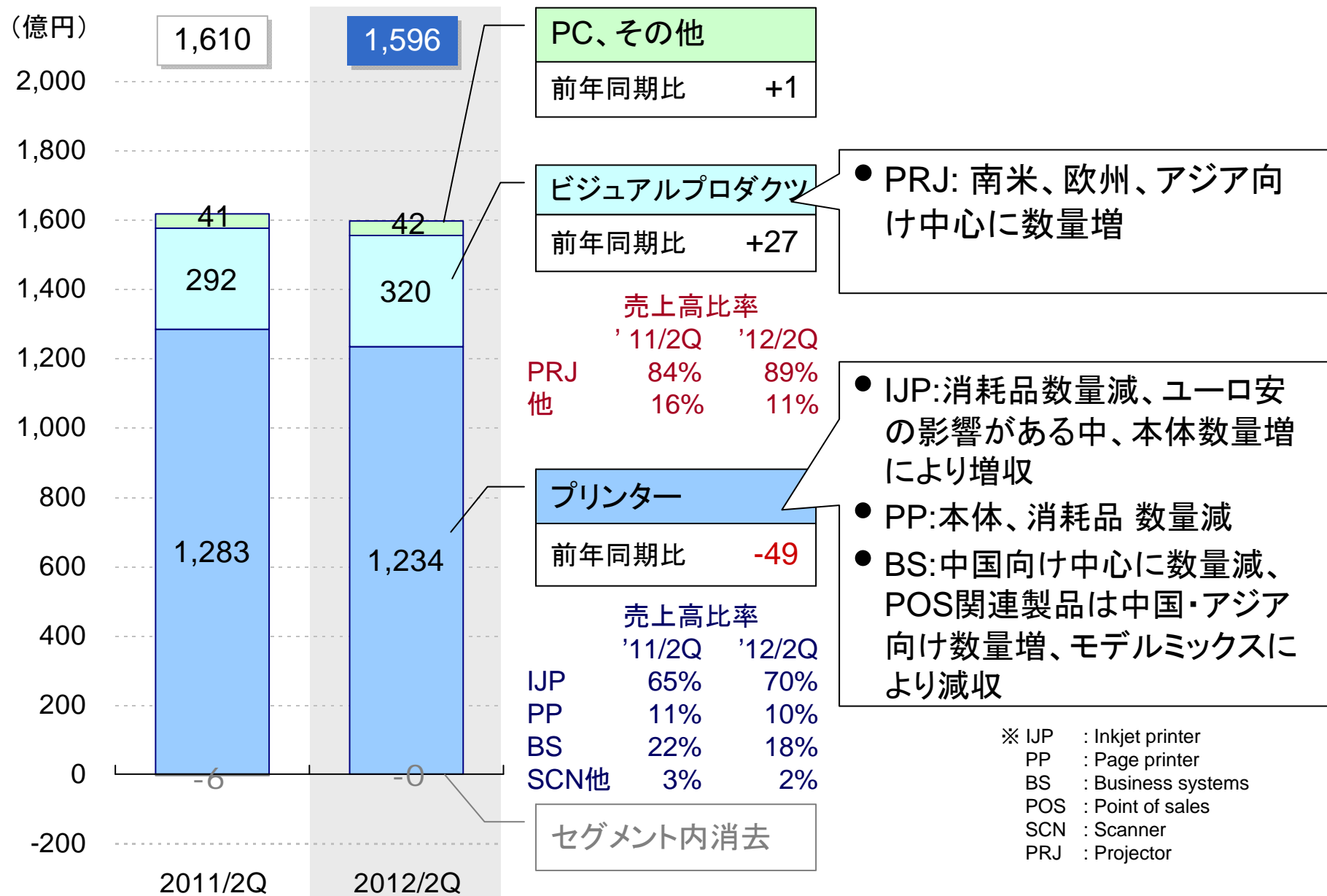


(億円)	2011年度		2012年度		増減	
	2Q実績	%	2Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,077	-	2,019	-	-58	-2.8%
営業利益	31	1.5%	19	1.0%	-11	-37.2%
経常利益	37	1.8%	22	1.1%	-14	-39.1%
税引前利益	△4	-0.2%	22	1.1%	+26	-
四半期純利益	△11	-0.6%	△9	-0.5%	+1	-
EPS	△5.75円		△5.48円			
換算 レート	USD	77.89円	78.63円			
	EUR	110.19円	98.36円			

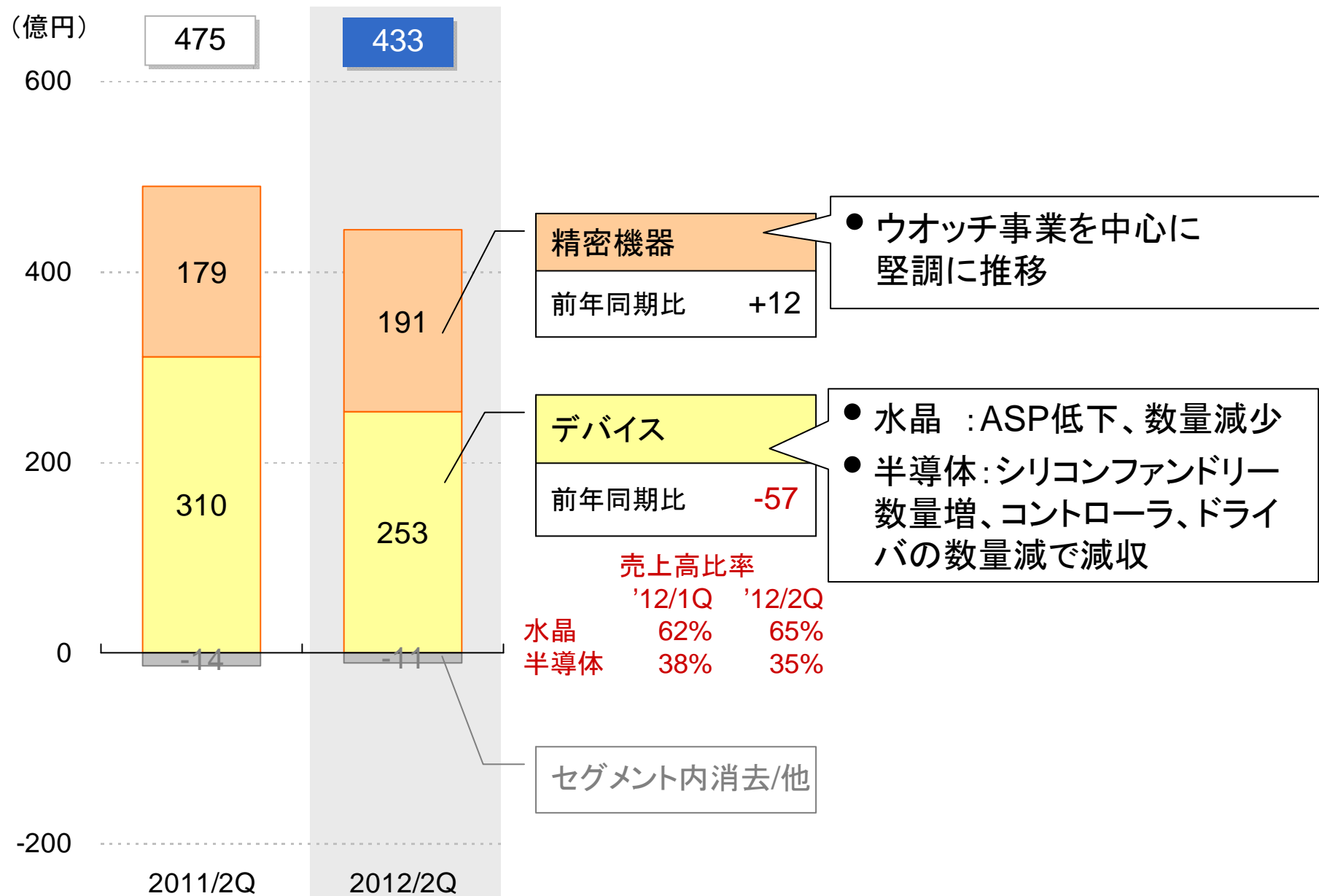
四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別



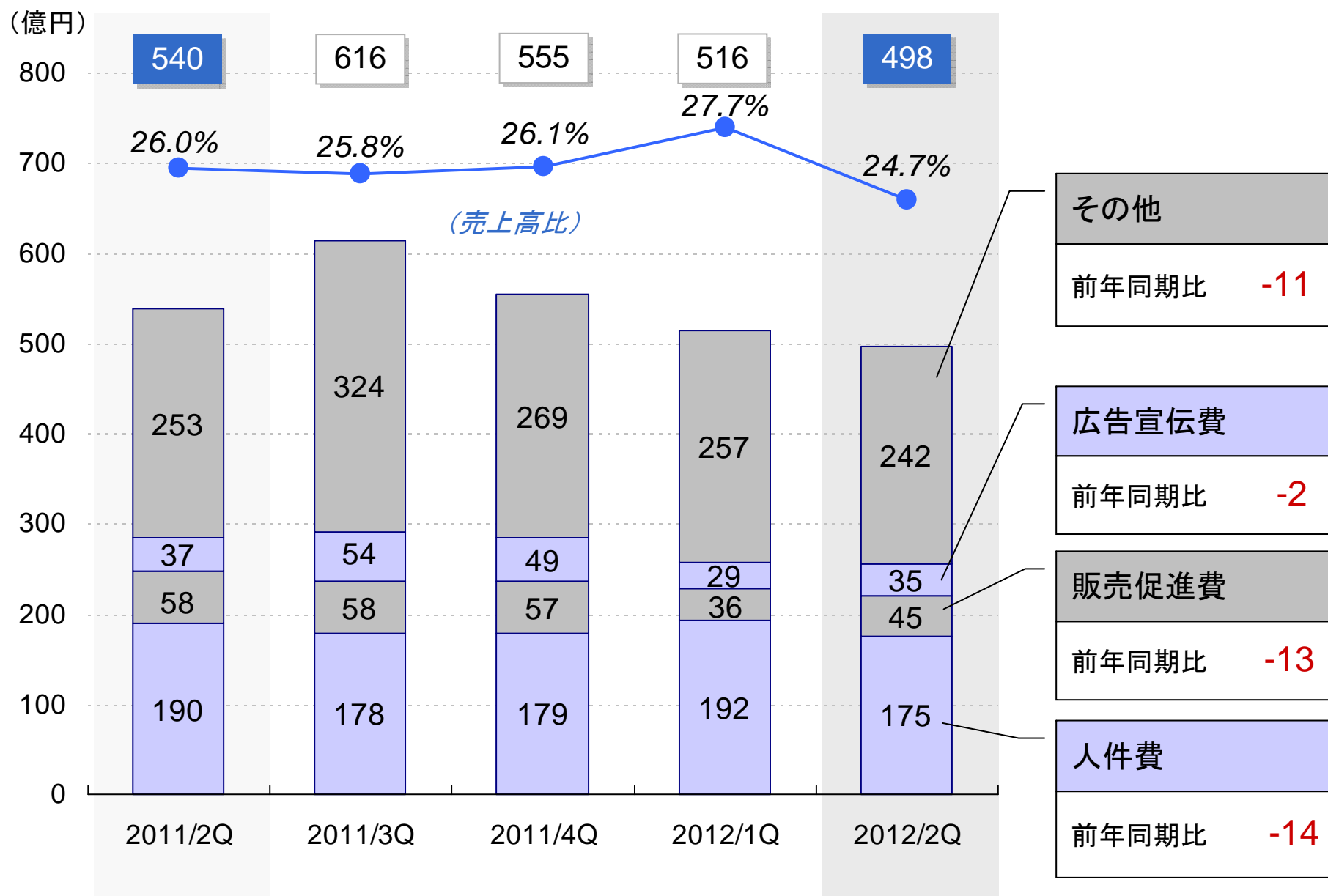
四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



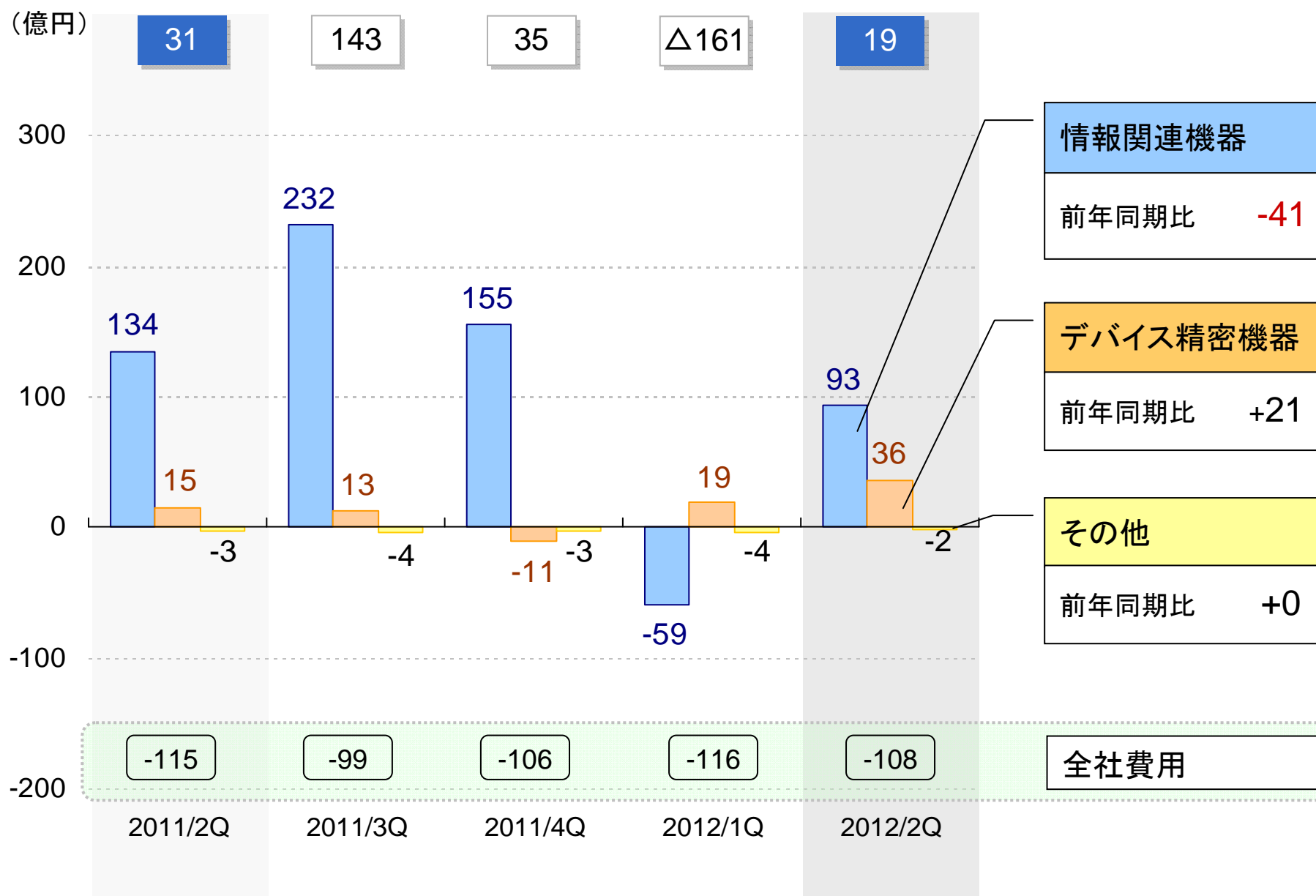
四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



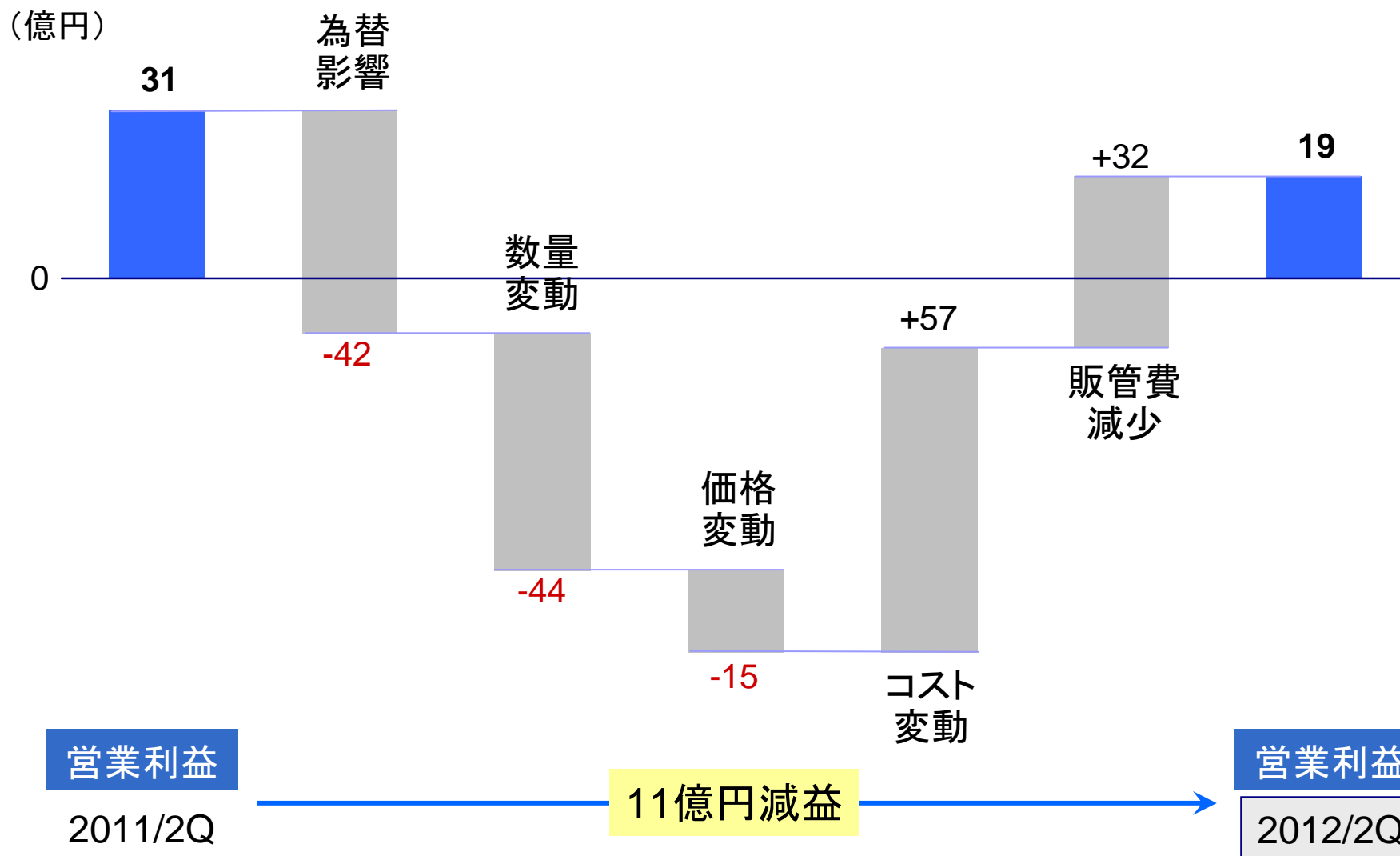
四半期販売費及び一般管理費推移



四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



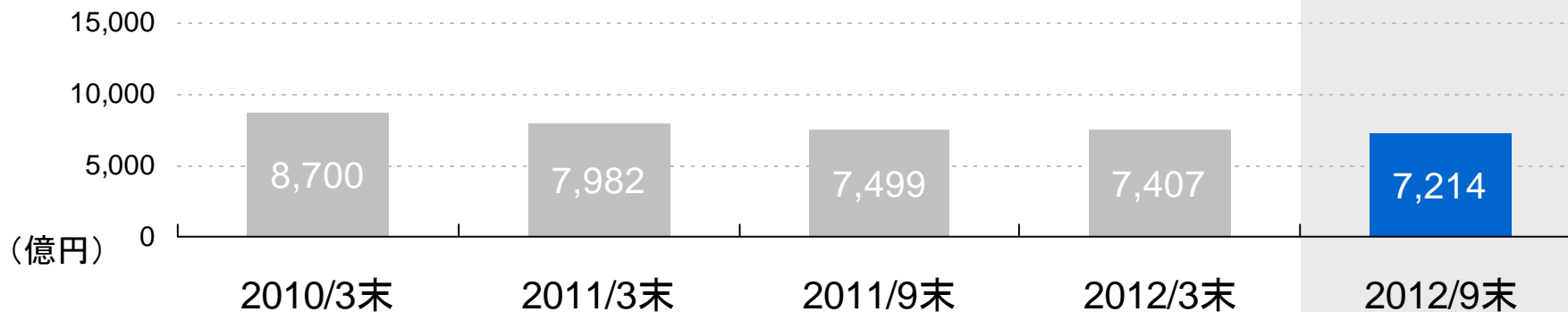
營業利益增減要因分析



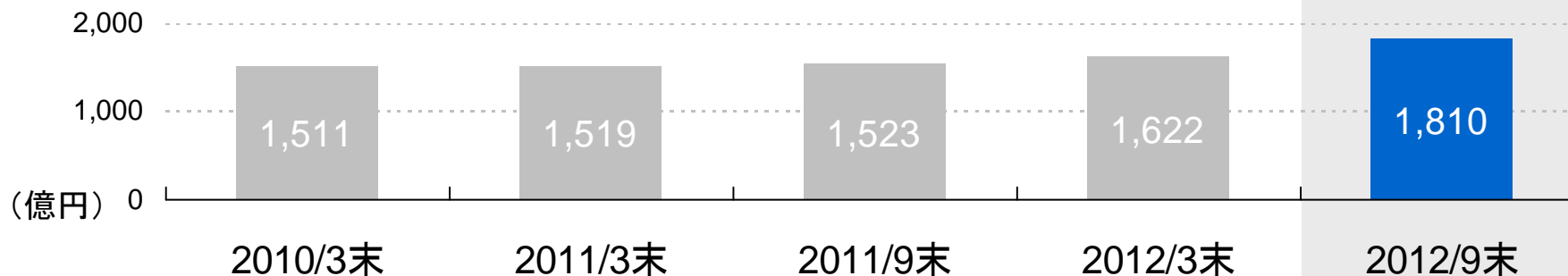
貸借対照表主要項目推移



総資産

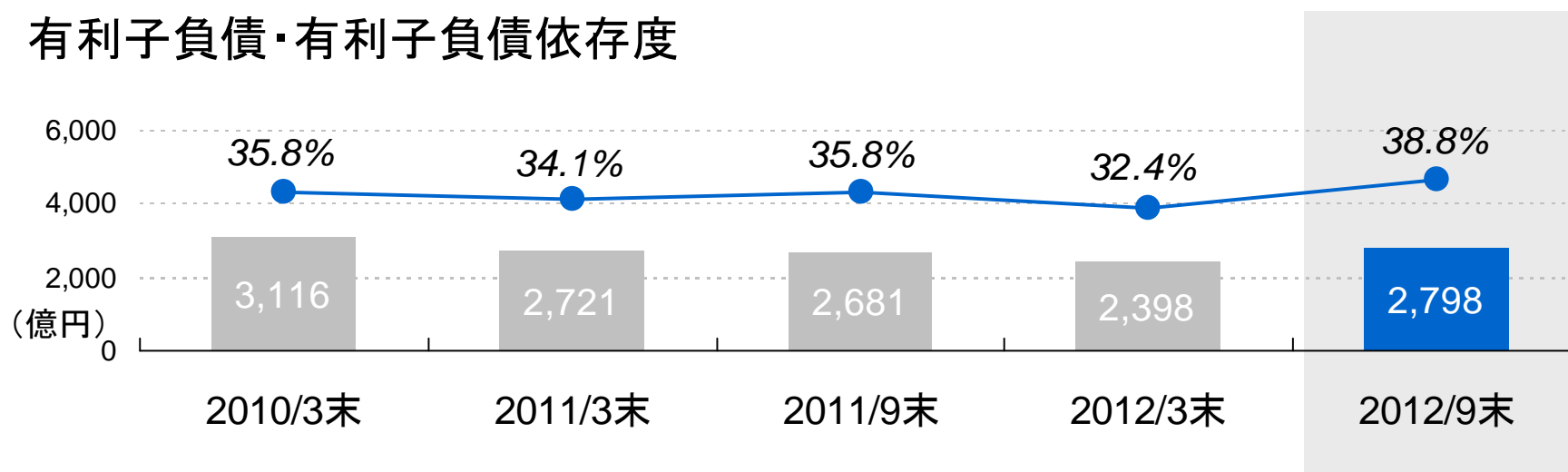


たな卸資産

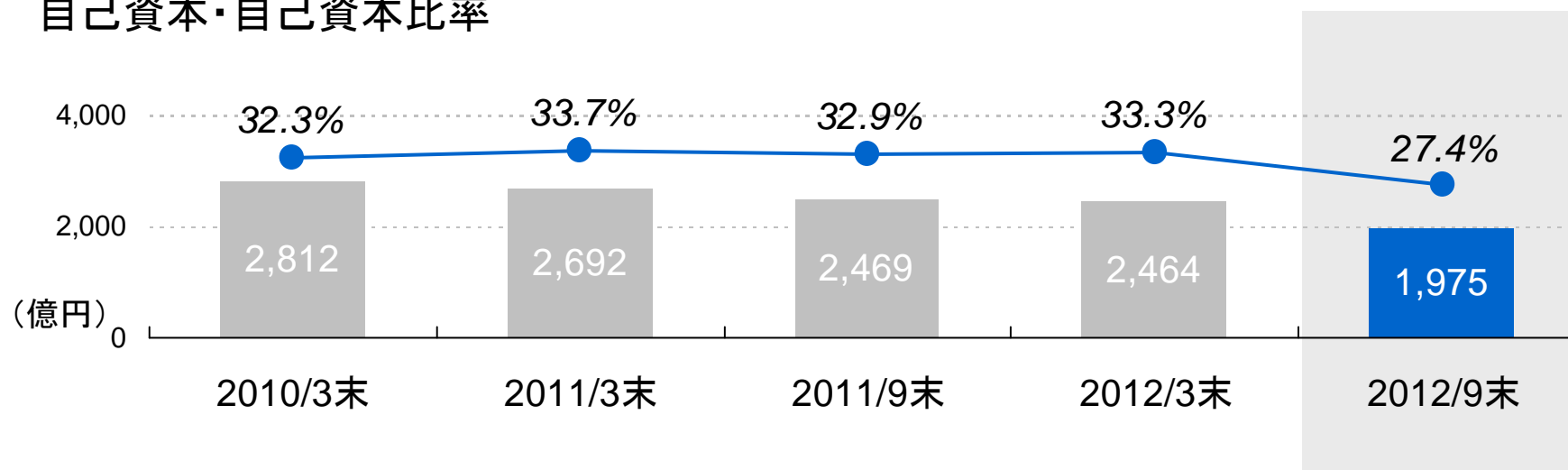


貸借対照表主要項目推移

有利子負債・有利子負債依存度



自己資本・自己資本比率



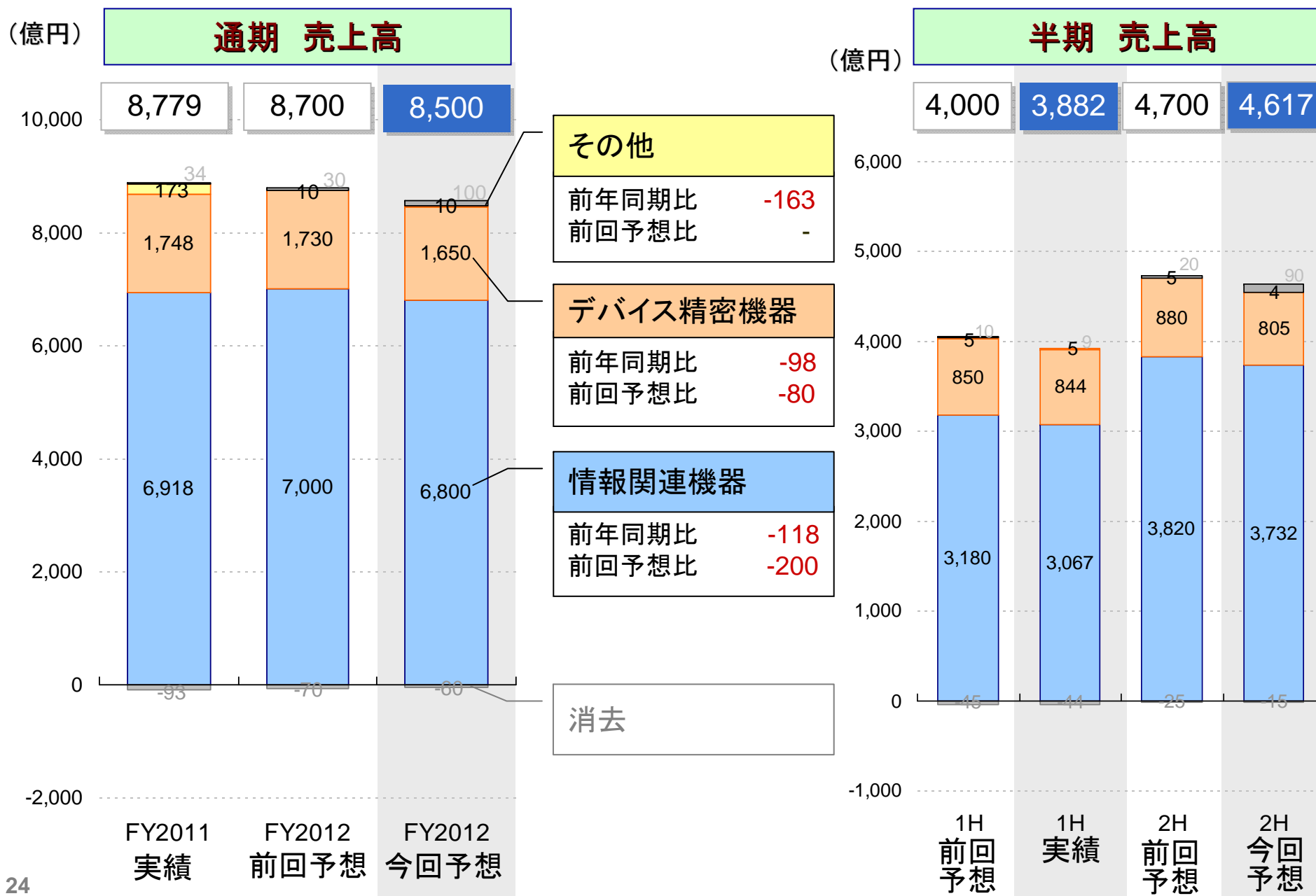
*有利子負債:リース負債を含む

*自己資本:純資産合計-少数株主持分

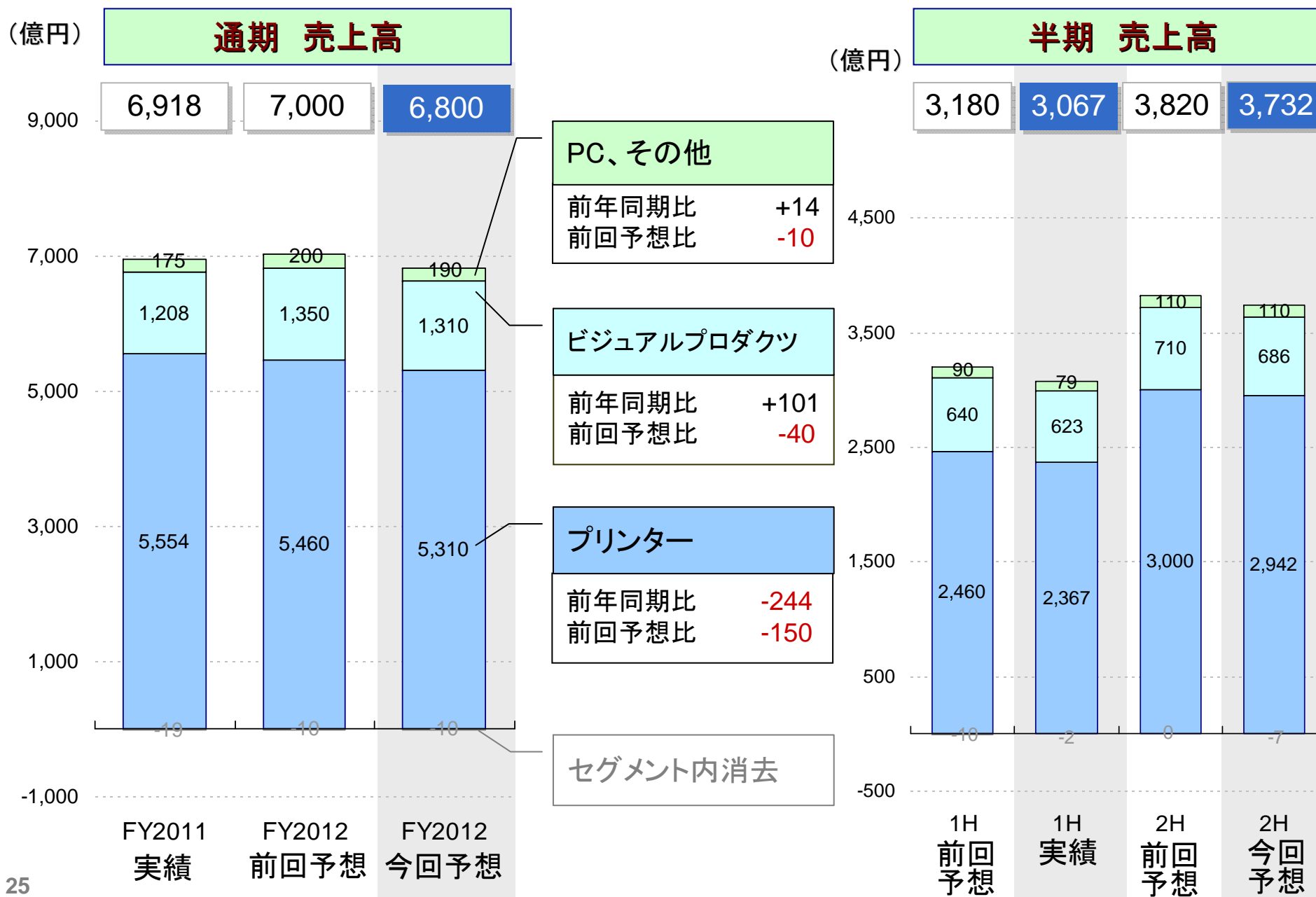
1) 2012年度 第2四半期決算

2) 2012年度 業績予想

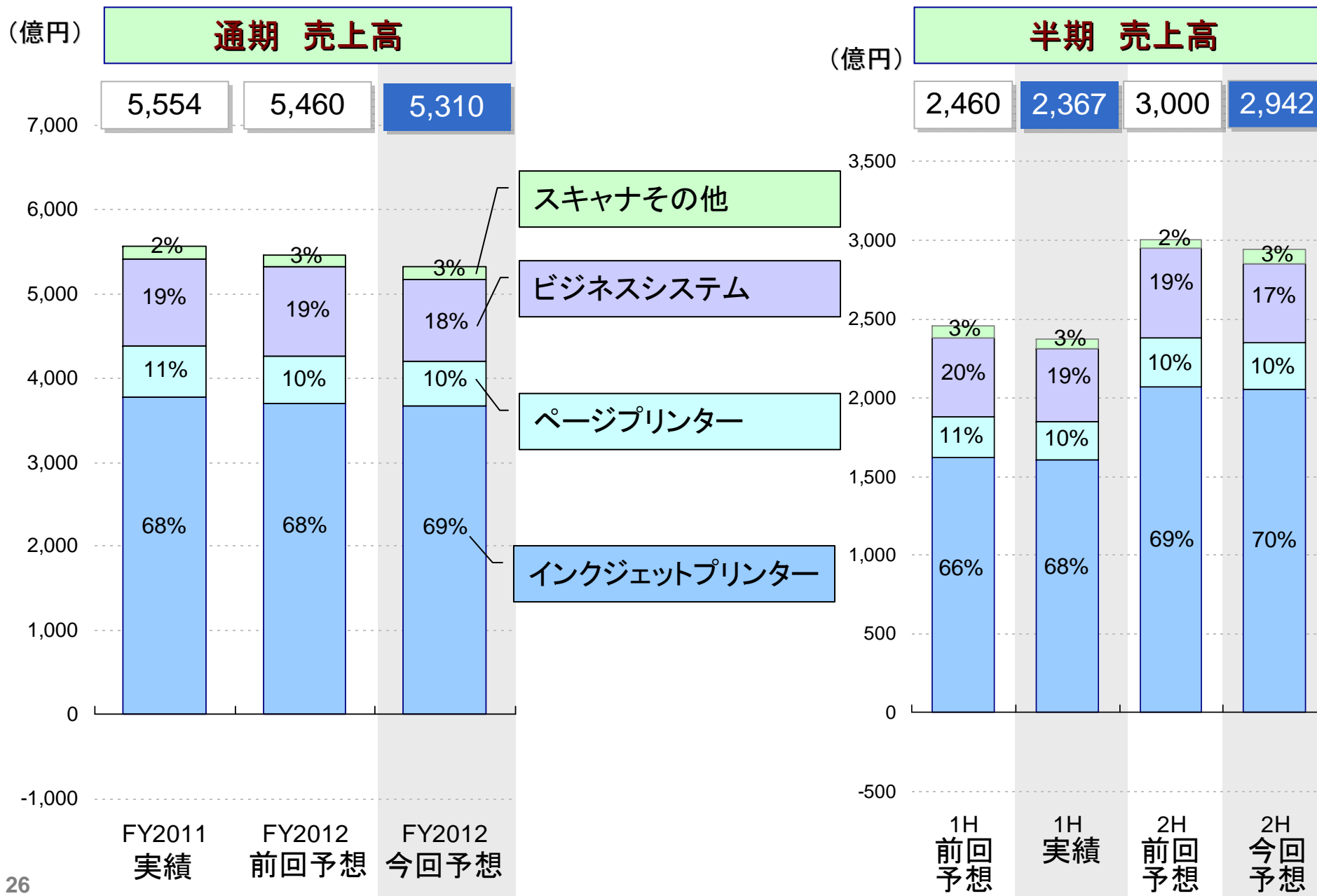
2012年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



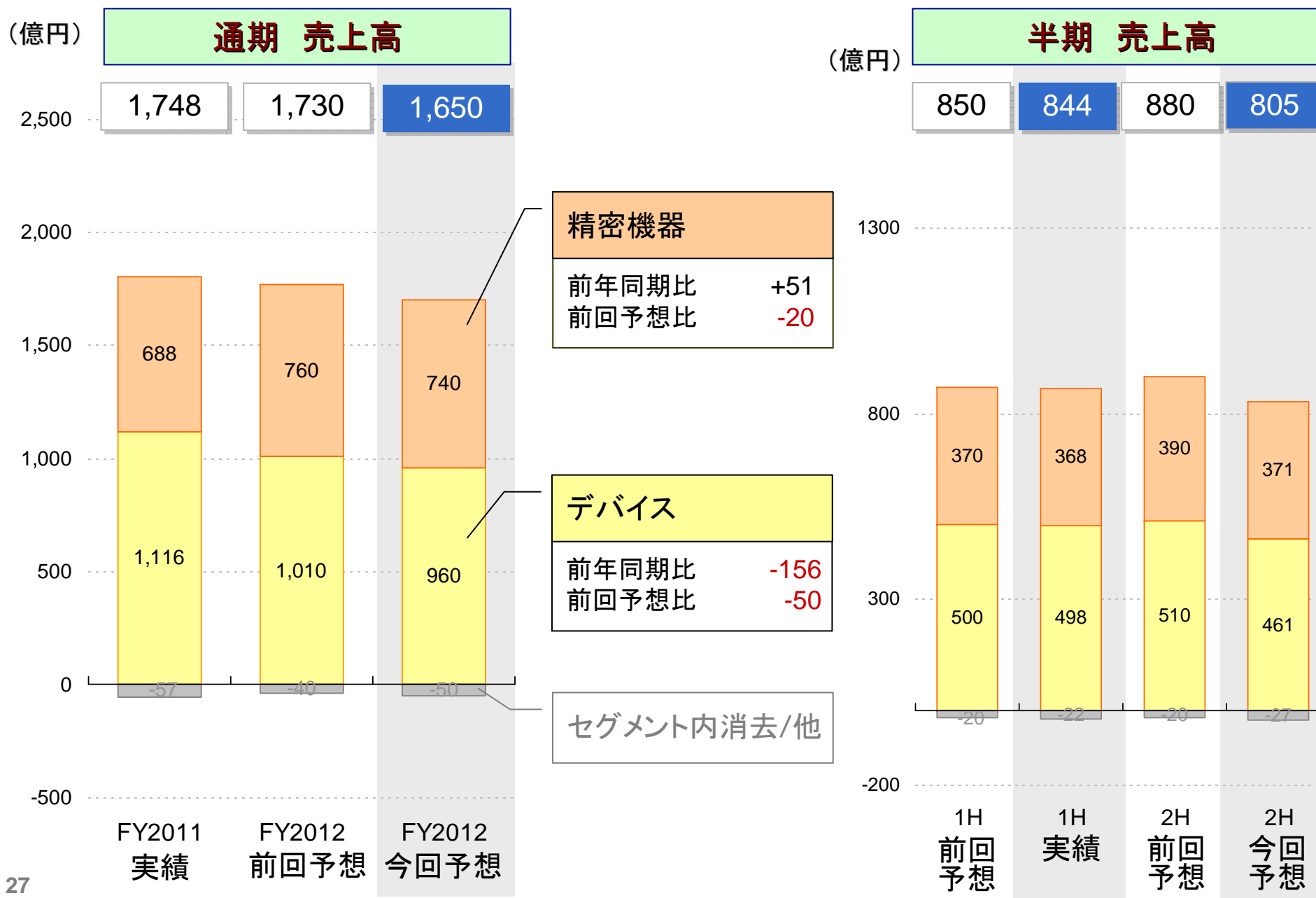
事業別売上高予想 ▶ 情報関連機器セグメント



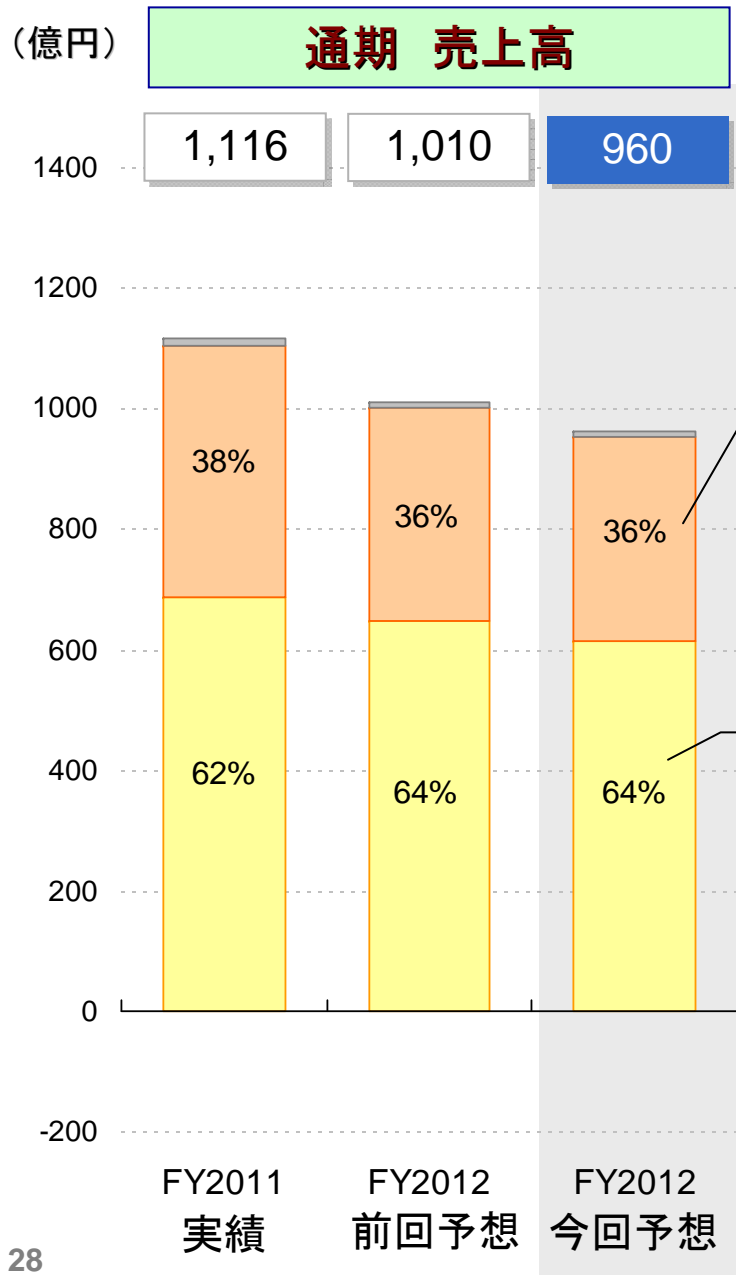
事業別売上高予想 ▶ プリンター事業



事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント

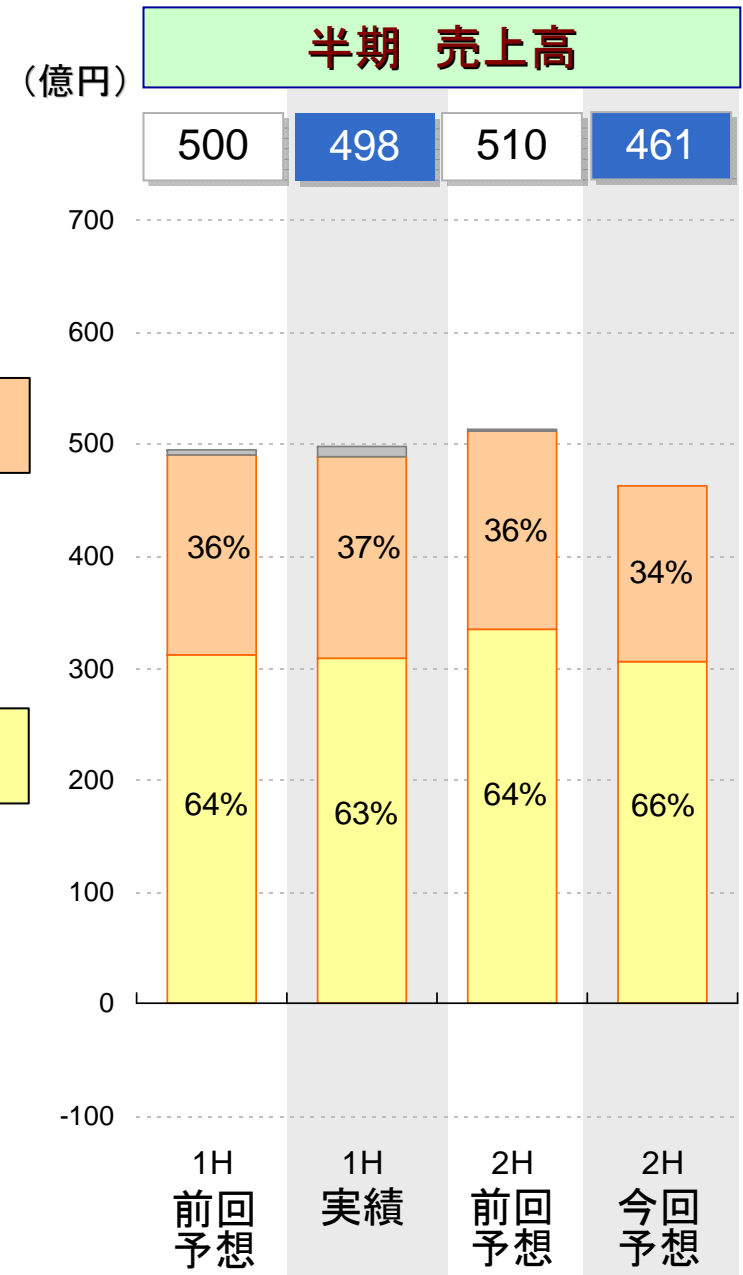


事業別売上高予想 ▶ デバイス事業

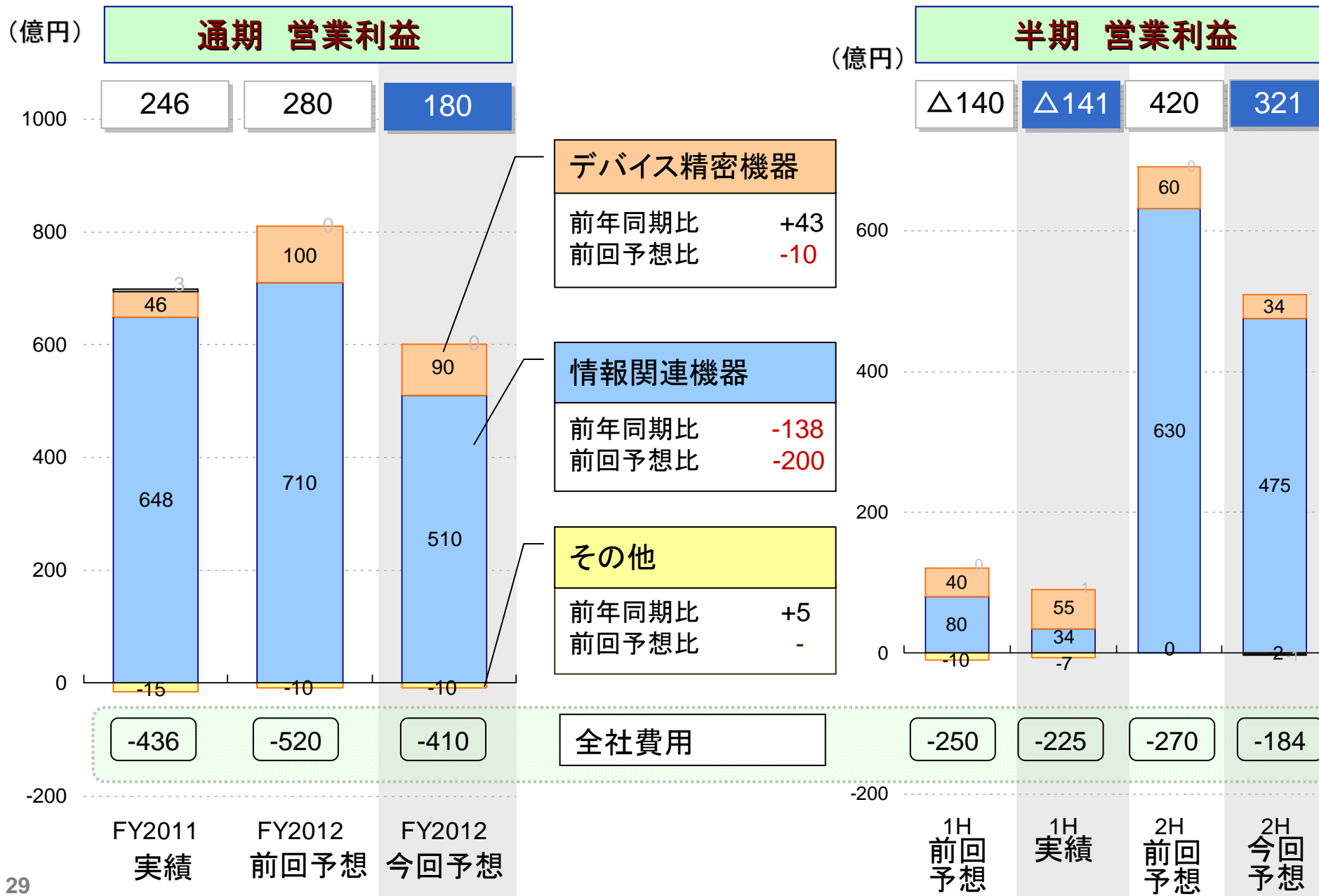


半導体

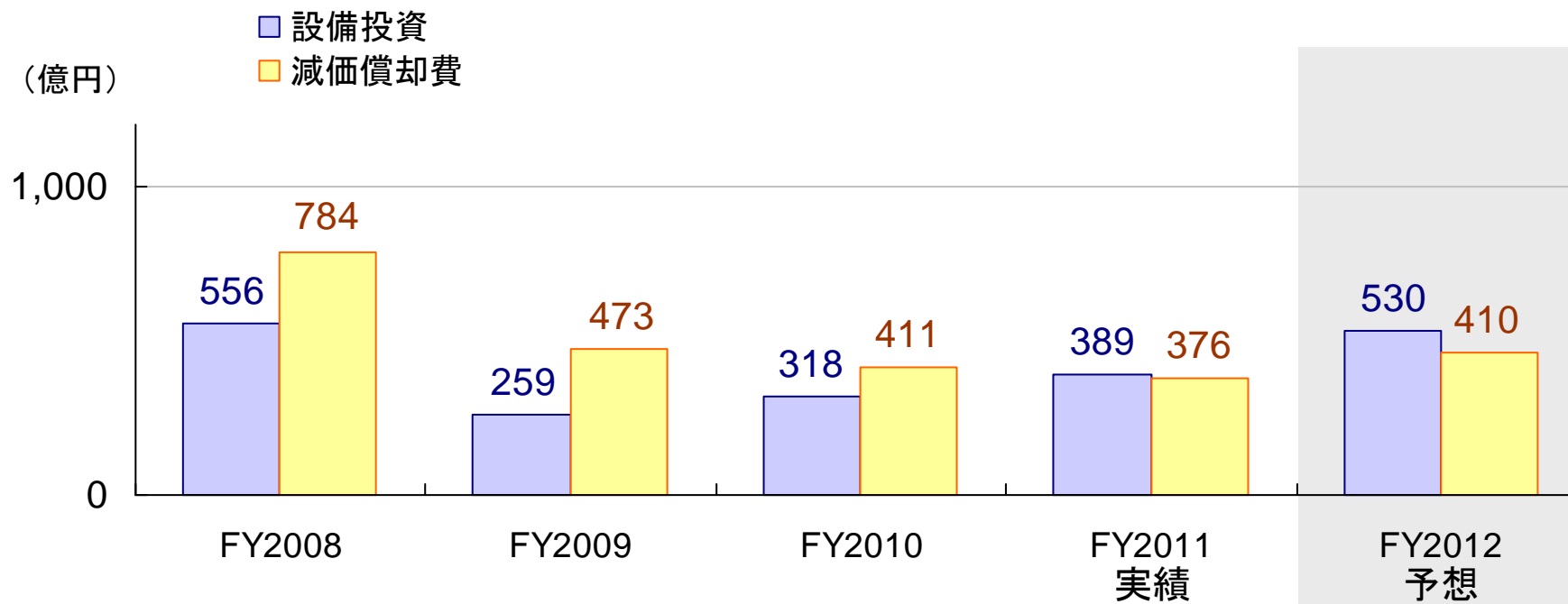
水晶デバイス



2012年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別

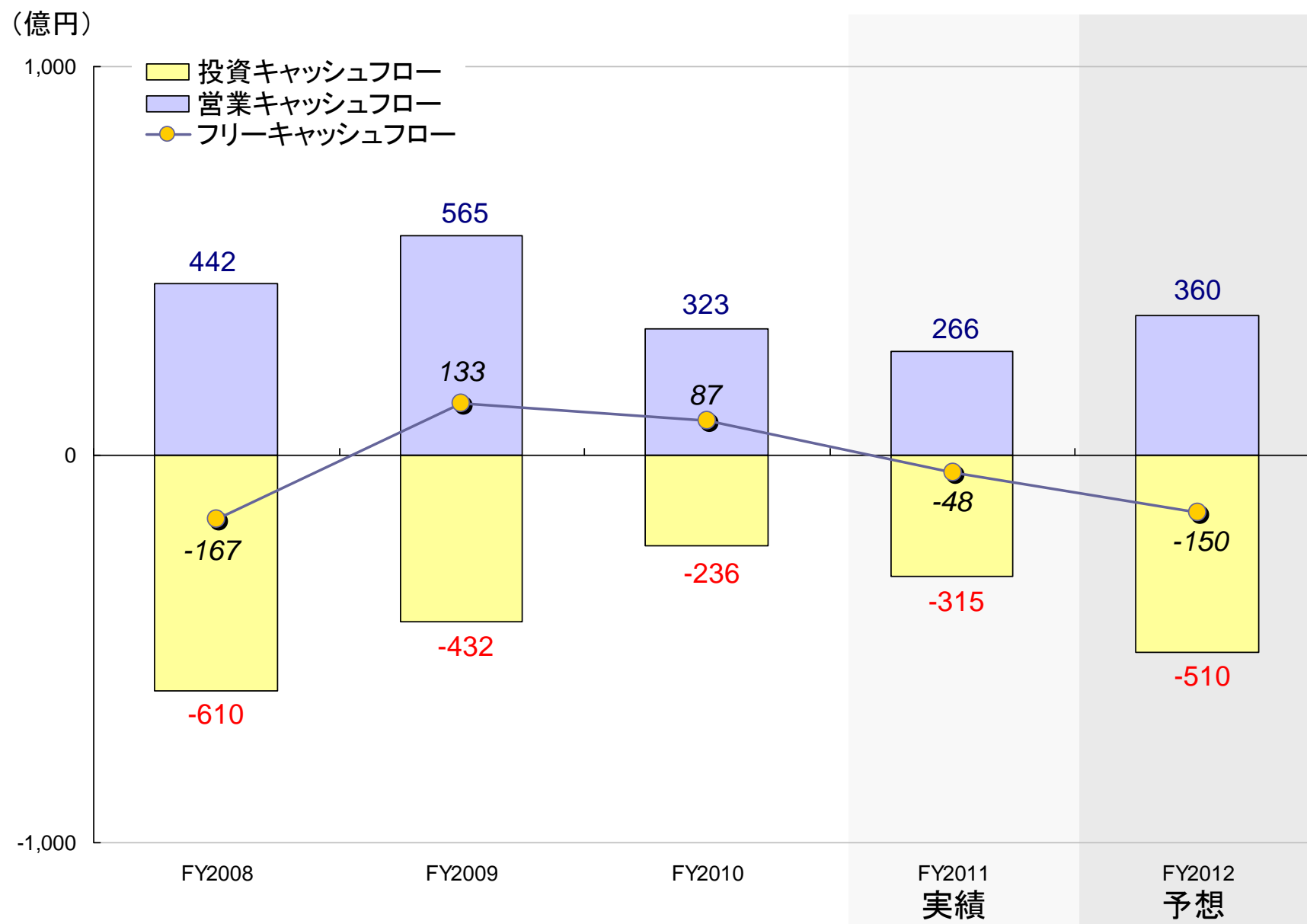


設備投資・減価償却費予想

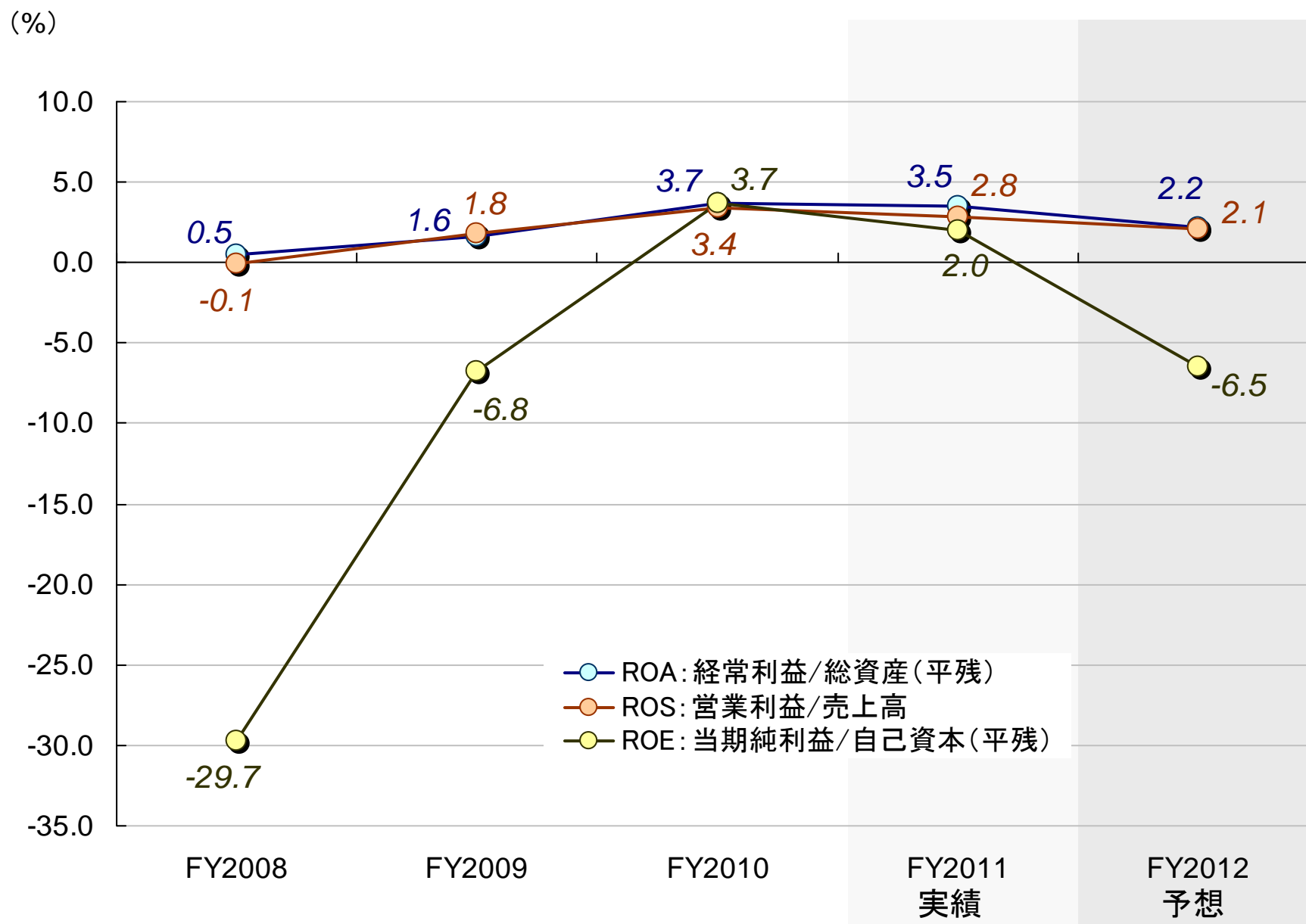


<セグメント別内訳>	FY2011実績		FY2012予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	295	227	400	270
デバイス精密機器	68	101	100	90
その他・調整額	25	46	30	50

フリーキャッシュフロー予想



主な経営指標の推移



EPSON
EXCEED YOUR VISION